

# 第2回 講演会のお知らせ

= 倉敷地域の科学教育を推進する会 =

倉敷地域は、子どもたちが初中等教育段階から科学技術を学び親しむ環境の整っているところです。学校教育を中心としながら地域とともに、この環境を活かした科学教育の推進に努め、倉敷地域の科学教育推進の取組を全国へ発信しましょう。第2回の講演会を開催いたします。講師は、遠西昭寿先生（愛知教育大学）で「新しい科学観からの理科授業再考」と題して講演をいただきます。

なお今回は、倉敷市内の清心中学校・清心女子高等学校と倉敷天城高等学校の2校が文部科学省のスーパーサイエンスハイスクール（SSH）研究開発指定を受けましたので、それぞれの研究開発についても紹介します。

多くの方の参加をお待ちしています。

## 講師紹介

遠西昭寿 愛知教育大学教育学部 教授  
日本理科教育学会事務局長

日時	平成18年7月1日(土) 13:30 ~ 16:00
会場	ライフパーク倉敷 中ホール
主催	倉敷地域の科学教育を推進する会
後援	岡山県教育委員会 倉敷市教育委員会 科学技術振興機構 日本科学技術振興財団 倉敷市小学校長会 倉敷市中学校長会
すべて申請中です	

問い合わせ 倉敷天城高等学校 辻 中山 県立中学校開校準備事務局

## 設立趣旨

我が国の科学技術創造立国の実現に向けて制定された科学技術基本法は、科学技術基本計画によってその具体的政策が示され、平成7年に始まった第1期基本計画は、現在第2期基本計画へと進んでいる。そして、平成18年度からは第3期基本計画に引き継がれる。これらの基本計画の中に重要政策として盛り込まれているのが『科学技術関係人材の養成・確保』である。

さらに、科学技術関係人材の養成・確保のためには「次代を担う人材の裾野の拡大」が必須であることが述べられている。具体的には『理数好きの子どもの裾野の拡大』や『興味・関心の高い子どもの個性や能力の伸長』に取り組む必要があり、そのために「初中教育段階から子どもが科学技術を学び親しむ環境を形成」しなければならないとされる。

ところが、国際調査(PISA、TIMSS)では、日本の子どもは『数学・理科とも「勉強の楽しさ」、「勉強への積極性」、「勉強に対する自信」などが国際的にみてかなり低い状況』であることが報告されている。また、博物館白書(平成11年)には科学館や自然史系博物館の人気の低さが報告されており、その後人気は回復しているという報告はない。これらの解決策の一つとして、学校教育現場のみならず地域社会の意識の高揚を図ることが必要と思われる。

そこで、科学センターと自然史博物館を有する倉敷において、学校教育を中心としながら、広く地域社会をも巻き込んだ科学教育を実践して、日本が抱える科学技術に関する様々な課題を解決することに資する会を立ち上げたいと考える。

## 会員

学校教育現場および地域において科学教育の教育実践の推進に関心のある方を会員とする。具体的には、倉敷市内の小・中・高校で理科教育、算数数学教育、技術家庭科教育、生活科教育、環境教育、情報教育および総合的な学習の時間の指導やコンピュータの

教育利用等の実践にたずさわる先生, 地域において環境教育, ボランティア活動等に関心を持たれている方々

.....  
倉敷地域の科学教育を推進会 事務局 倉敷天城高等学校